

日本大学東北高等学校同窓会会報

桜 采 OUDA



NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU
SINCE 1955

第14号



正門上空より見る校舎全景。遠く宇津峰山が見える。(ドローンによる撮影)

写真提供:今泉雅文(22期普通科卒、ブイテック東北代表)

発行日/2016年8月1日

発行/日本大学東北高等学校同窓会

郡山市田村町徳定字中河原1

<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

編集/日本大学東北高等学校同窓会桜采編集部

日本大学東北工業高等学校・日本大学東北高等学校同窓会 創設60周年記念式典・祝賀会



心より御礼申し上げます。

創設60周年記念式典・祝賀会開催にご協力いただいたすべての方々と当日足を運んで下さいました方々に心よりお礼申し上げます。

題号秘話

桜の枝がしだれるという「桜采(おうだ)」の命名とデザイン文字は、創刊当時の廣長威彦氏によるものです。そこには、「幹としての本部と枝としての支部がひとつとなって、互いに成長し続けよう。」との想いが込められていました…。(桜采8号より)

同窓の絆

日本大学東北高等学校 同窓会会長

15期生 柳 沼 正人



会員の皆様には、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。昨年秋の創設60周年記念式典には多数の先生方をはじめ多くの会員の方々にご参加いただきましたことを心より感謝申し上げます。「同窓の絆」と底力を感じることのできる一時でありました。開催に関係したすべての方々にこの場をお借りして重ねてお申し上げます。

さて、ここ数日間、頻繁に母校のオープンスクール紹介のTVコマーシャルを目にするようになりました。この傾向は、やはり少子化現象の一コマなのか?と考えます。私も郡山で食品会社を経営しており、人材確保に躍起になっておりますが思うように集まりません。そのため合理化による機械化を進めている所です。中小企業も人財確保に尽力しなければならない時代ですが、これからの学園運営

も少子化による大変な時代を迎えます。まさに私学としての特色ある運営が求められる時代の到来です。

ところで、日本大学及び母校の理念に「自主創造」という言葉があります。難しい時代だからこそ、強く雄々しくこの理念に向って突き進んでほしいと願います。校歌の歌い出しの「日に日に新たに～」の一言は、実に新鮮でエネルギーギッシュな言葉だと思いませんか。長いようで実は短い人生には、平坦な道など決して存在せず、苦境に陥る場面も多いものです。そのような時、ぜひ校歌を口ずさんでみて下さい。体の芯から新しいエネルギーが湧き上がって来ることを実感するはずですよ。皆様が各自の夢を持ち、その夢の実現のために一生懸命になる時、母校の理念や校歌はその背中を押す大きな力になることを私は確信しております。

今や時代は、国境の垣根を超えて活躍する場面を要求しております。私たち地方の中小企業にも、近いうちに日本語や英語が自然に飛び交うオフィスが出現することでしょう。同窓生の絆を通して、母校がこれからも多くの生徒さんの笑顔に満ち溢れんことを、そして皆様の益々のご健勝ご活躍をお祈り申し上げ、私の挨拶といたします。

教頭あいさつ

日本大学の理念 「自主創造」の 実現に向けて

日本大学東北高等学校

教頭 渡 邊 弘幸



同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。この度の同窓会会報誌「桜朶」第14号の発行、心よりお祝い申し上げます。私は本校に赴任して今年で38年目を迎えますが、本年度より教頭を拝命し身の引きしめる思いで毎日を過ごしております。今日まで築き上げてきた本校の伝統を継承し、更に発展させる覚悟で努力してまいりますのでよろしくお願い致します。現在、在校生1410名(男子828名・女子582名)が元気に学校生活を送っております。学習面・部活動と着実に実績を残し、地域社会から高く評価され期待される学校となりました。少子化が進む中で募集定員をほぼ満たす生徒が入学してきているのもその期待・評価の表れと考えております。

しかし、今後少子化が益々進み、生徒数確保が難しくなる中、同窓生の皆様のご支援ご協力は不可欠です。今後とも趣旨ご理解の上、何卒お力添えのほどお願い致します。

さて、新しい時代に対応した人材の育成および日本大学の理念である「自主創造」の実現に向け、今後学校の取り組みを含めて考えてみたいと思います。最近、スポーツ界の話題の一つに「日本選手に不足していることは何か」というテーマがあります。それに対して外国人の監督や指導者がよく口にする言葉は「日本選手は組織的な行動は優れているが、自主性と創造性には欠ける」とのことです。これは、日本の教育が体系的組織的に行われることで、決められたことや一定の枠内では高い能力を発揮できるけれども、自主的・創造的な能力が求められる場面では課題が残るという

ことに他なりません。刻々と変化するスポーツの試合展開の中では最後は選手一人ひとりの自主性や創造性による判断が勝敗を大きく分けることになります。

このことは、教育においても同じです。子供の自主性や創造性を育てるためには、知識中心の詰め込み教育ではなく、問題解決の道筋について考えさせることを通してそれらは身に付けることができます。決まった答えを正解とする学習や暗記だけに頼る学習の繰り返しでは、自主性や創造性は養われません。次期学習指導要領においてもこれからの社会において求められる「確かな学力」・社会において自立して活動をしていくための「資質・能力」について、以下の3つの柱が打ち出されています。

- ①「何を知っているか・何ができるか(個別の知識・技能)」
- ②「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」
- ③「どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか(主体性・多様性・協働性等)」

これらを如何にして身に付けさせるかが、これからの学校教育に求められている課題といえます。

本年度、本校ではグローバル化社会に向けた教育プログラムを実践し、新しい時代に対応した生徒の育成に取り組んでおります。また、教員の授業力の向上に努め、習得・活用・探究の学習過程全体を見通した不断の授業改善として、アクティブラーニング等の実践をテーマとして研究・公開授業を実施しております。

今後益々進む情報化社会において、生徒自ら進んで道を切り開いていく能力を発見し、開花させる教育を推進して参ります。日本大学の理念である「自主創造」を指針とし、地域社会から愛される学校を目指し、教職員一丸となって指導に当たってまいりますので、同窓生の皆様には今後とも本校の教育活動にご協力ご支援賜りますようお願い申し上げます。

旅人は歴史を重ねて創意する
歴史は人を育てる栄養は環境にある
再び、旅人は挑戦する

高橋 四郎 先生



今年8月で81歳になられる高橋四郎先生。平成13年の定年退職まで40年余り、地歴公民科の教員として教鞭を執る傍ら、普通高校への移行など本校の節目節目に関わってこられた。常に生徒第一に歩んでこられた思いや、お元気の秘訣などをお聞きました。

●恩師のひと言から教員の道へ

先生は秋田県出身。なぜ福島県の高校の教員になったのか。それは日本大学で考古学を学んでいた学生時代の恩師のひと言だった。「石田幹之介先生という、私が歴史を志すきっかけになった東洋史の教授がおられた。その先生から4年生のときに「あなた、東北出身でしたね。郡山の高校で歴史の先生を捜していますが、どうですか」と言われたんです。いろいろお世話になっていたので、「はい!」と返事するしかなかったですね(笑)」

そんな経緯からか、先生は赴任するまで勘違いしていたことがあった。「ここに来て初めて勤務校が工業高校だと分かった。日大付属だから、東京の付属校などと同じ普通高校だとばかり思っていた」と苦笑する。

●「なにより生徒のために」を貫き通す

当時、普通科は2クラス。あくまで工業科がメインで、卒業後は就職する生徒がほとんどだった。「日大の付属高校なんだから、進学という道も示すべきでは」。先生は着任当初からこう思い続けていたものの、普通科を充実させたいという願いが徐々に形になっていったのは、昭和も終わりの頃。ご存知のように53年には普通科の学級が増え、そして平成元年には普通科が2つのコースになり、同時に女子入学もスタートと、大きな転換期を迎えた。「われわれ教員の仕事は、常に生徒のほうを向いて、生徒のために舞台装置をきちんと整えてあげることだとずっと思っていましたから。やはり形になっていくのは嬉しかった」と語る先生の顔は当時の熱血教師の顔に。

●創設20周年の年に吹奏楽部第一回演奏会

数々の部活動の顧問も務められたなかで、忘れられないのは昭和44年から携わった吹奏楽部での活動という。「ある日、問題を起こした生徒がブラバンやりたいと言ってきた。理由を聞くと、音楽が好きだから楽器が上手になりたいと。分かった。やるなら定期演奏会を開こう。

でも練習は厳しくなると。それで20曲を目指して猛練習しました。でも今年は難しいからと、生徒たちと話し合って翌年開催することにした。それがちょうど学校創設20周年の年だったんですね」

創部10周年も重なった昭和46年の8月22日。郡山市民会館で



吹奏楽部 バレード
郡山駅を背に出発し、4号国道を左折、現在の消防署(その当時は警察署)の前で国道に面して並び演奏を披露。その後金透小学校の下をパレードしながら通過している様子。
昭和37年9月30日午前11:00 撮影
写真提供/渡辺忠義氏(電気科2組 昭和38年10期卒)

行われた記念すべき第一回定期演奏会は大成功。「その頃、定期演奏会をしていたのは安積高校ぐらい。生徒たちが本当によく頑張った」と目を細める。

●シカゴからウィーンへ、まちづくりにも貢献

その後、日工吹奏楽部は郡山市の行事で頻繁に演奏するようになった。先生はというと、音楽を通して郡山のまちづくりに関わることに。『百万人の大合唱』という映画をご存知だろうか。東北のシカゴと呼ばれていた郡山から、音楽で暴力を追放しようとした市民の実話を元に昭和47年公開された。先生は、その出発点といえる「10万人の大合唱」の実現に尽力されたお一人。

「当時の郡山駅前は大人数でも歩くのが怖いくらい。このままではまずいと、市内の高校の先生方と郡山市吹奏楽連盟を立ち上げて、音楽に関わる人たちが音楽で郡山をよくしようと動き始めた。郡山には金透小や国鉄郡山工場などレベルの高い合唱部があったし、それで10万人からスタートして、次が20万人、最終的に東北へも広げようと100万人の大合唱になった。郡山は東北のシカゴから東北のウィーンへと変わっていったんですが、こういう経緯は今の役所の人も知らないはず。これは音楽づくり運動ではなく、あくまでまちづくり運動だったんですよ」と、貴重な逸話を披露してくださった。



●卒業生に感謝、感謝

先生は38歳から70歳まで、郡山市教育委員会の文化財保護審議会(当時)で遺跡調査に携わってこられた。その頃から卒業生との関わりが増えた。「市のいろいろなポストのトップに本校卒業生が就いていたりして、かなりお世話になった。役所外でも工業科を卒業した2代目OB会長の伊藤さんをはじめ、多くの人に面倒みてもらった」としみじみ語る。市との直接的な関わりは減ったものの、今でも多くのOBと感謝のおつきあいが続いているそうだ。

●健康の源は旺盛な探究心

とても若々しい先生に健康の秘訣を伺うと「子どもの頃から野良仕事をして、柔道と合気道もずっとやっていたから体力はある」とのお答え。昔からの趣味の海外旅行は今も続けられ、しかも山歩きをするというから驚きだ。一人暮らしのご自宅では、いつも音楽を聴き、食事づくりも楽しんでおられる。だから「私生活の悩みは何もない。気になるのは日本や世界の不安定な情勢」という。少子化傾向にも懸念を持たれ、県中地区の人口推移を細かく調査した資料はお見事の一言。

『旅人は歴史を重ねて創意する 歴史は人を育てる栄養は環境にある 再び、旅人は挑戦する』これは先生が創案された人生訓だが、実践し続けている先生から却って元気をいただいたインタビューだった。



カナディアン・ロッキー大自然満喫の旅(トレッキング)



同窓会創設60周年記念式典・祝賀会開催

昨年10月9日(金)午後5時半より郡山ビューホテルアネックスにて定例総会および同窓会創設60周年記念式典・祝賀会が三部構成で開催された。

第一部の総会の議長を務めたのは、廣瀬吉彦氏(昭和45年普通科卒17期生、須賀川市議)。平成25・26年度の会務報告および決算報告と平成27・28年度の事業計画と予算案の審議がなされた。途中、質疑応答や一部追加変更の意見等が出されたが、スムーズな議事進行により、原案通り可決された。

第二部は桂幸丸師匠(本名:二瓶真一 昭和48年普通卒20期生)の記念落語。高校時代の思い出や、母校の名物先生をネタした地元ならではの訛りを交えた語りに、会場は終始笑いの渦に包まれた。

第三部の式典・祝賀会の司会を務めたのはKFB(福島放送)アナウンサーの猪俣理恵氏(平成13年普通科卒48期生)。会に先立ち今泉雅文氏(昭和50年普通科卒22期生、ブイテック東北代表)がドローンにより空撮した学校風景と事務局編集による会報誌桜采(OUDA)に込められた想いを綴った「オープニングビデオ」が上映されると、会場からは感嘆の声が漏れた。宗像幸雄副会長(昭和34年電気科卒6期生)の開会の挨拶に続き、会長代行の村山廣嗣副会長(昭和44年電気科卒16期生)が、詰めかけた同窓生や学校関係者約250人を前に「卒業生同士で親睦を深め、青春時代の話に花を咲かせてほしい」と挨拶。松井弘之校長の挨拶の後、同窓会に功労のあった役員経験者23名に対して本会より感謝状(記念の楯)と記念品が贈られた。

また本会から学校へ記念品として、生徒教室用掃除機一式・教室用電波時計一式・空気浄化機能付き観葉植物一式の目録が松井校長へ贈られた。

来賓者を代表し、出村克宣日本大学副総長(兼工学部長)と、品川萬里郡山市長から祝辞を頂戴した。

樽酒鏡割りの後、母校出身の市町村長・県議・市議13名を代表し、瓜生信一郎氏(昭和47年普通科卒19期生、福島県議)の乾杯の発声を合図に、会場のあちこちで懐かしい思い出話に花が咲いた。各テーブルには本会を記念するオリジナルラベルの日本酒が振る舞われた。途中、学校のあゆみを紹介するビデオ上映と、昨年2月25日デビューした津吹みう(本名:津吹実佑 平成26年普通科卒61期生、クラウンミュージック所属)のオンステージに会場は大いに盛り上がり、惜しめない拍手が送られた。

最後の山場となったのは猪俣アナウンサーの元担任である石川高遠教諭(平成4年普通科卒39期生)が加わった「お楽しみ抽選会」。タブレットPCを含む豪華賞品(参加者全員空くじなし)を受け取った会員の表情は、笑顔ではころんだ。中締めの方歳三唱は猪腰嘉勝先生が担当。熱気冷めやらぬ中、吉田勝盛副会長(昭和41年建築科卒13期生)の閉会の挨拶で終了した。開催にあたり「参加するすべての人を笑顔に!」を今回のスローガン

としていたが、全国各地から足を運んでくれた会員の多くは笑顔で会場を後にした姿が印象的だった。

僅か2週間余りの募集期間ではあったが、100件のOBやOB企業の協賛をいただいた。今回の協賛によって「お楽しみ抽選会」のすべてが賄われたことは、何よりも日本大学東北(工業)高等学校同窓会の底力を再確認する場となった。諸事情により参加できなかった方々からも次回は是非参加したいという声が寄せられた。なお、10年前の「創設50周年記念式典」の反省点に「親睦を深めやすくするため席を自由にしてほしい」という要望があり、今回は来賓席以外全席自由としたが、配慮に欠けてしまった点があったという反省が事務局から出された。

当日の写真撮影は神山貞義氏(昭和54年工業化学科卒26期生、旭写真館)、また映像記録は谷代克明氏(平成11年普通科卒46期生)が担当した。



定例総会の様子。議長は廣瀬吉彦氏(昭和45年普通科卒17期生、須賀川市議)



桂幸丸師匠(昭和48年普通卒20期生)の記念落語の様子



式典・祝賀会の司会を務めたKFB(福島放送)猪俣理恵アナウンサー(平成13年普通科卒48期生)

創設 60 周年記念式典



宗像幸雄副会長
(昭和34年電気科卒6期生)の開会の挨拶



会長代行の村山廣嗣副会長
(昭和44年電気科卒16期生)の挨拶



同窓会功労賞授与の様子



写真左より、村山会長代行、渡辺義信(和58年卒28期生)福島県議、
松井校長、出村日本大学副総長、品川萬里郡山市長による樽酒饗割り。



瓜生信一郎氏
(昭和47年普通科卒19期生、福島県議)
の乾杯の発声の様子



歓談の様子



お楽しみ抽選会



「どんと響く、直球ボイス」津吹みう
(平成26年普通科卒61期生)のステージ



猪腰嘉勝先生
元本校教諭(10期生)による中締めの方歳三唱



吉田勝盛副会長(昭和41年建築科卒13期生)の開会の挨拶

平成27年度 母校の様子 1年間のあゆみ

4月 April

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 5日(日) 入学式 | 15日(木) 基礎学力到達度テスト(1・2年) |
| 7日(火) 対面式／着任式／始業式 | 16日(金) 基礎学力到達度テスト(3年) |
| 9日(木) 校外オリエンテーション(1年、～11日) | 25日(土) 後援会総会・学級懇談会 |

5月 May

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1日(金) 全校集会／生徒総会 | 11日(月) 授業参観(第1回～16日) |
| 2日(土) 校内マラソン大会 | 18日(月) 1学期中間試験(～21日) |

6月 June

- 1日(月) 衣替え／全校集会／教育実習(～20日)
29日(月) 1学期期末試験(～7/2日)

7月 July

- 11日(土) アカシヤ祭(一般公開) 18日(土) 終業式
14日(火) 三者面談開始(～17日)

9月 September

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1日(火) 2学期始業式 | 29日(火) 生徒会役員選挙 |
| 7日(月) 第2回研究授業(～11日) | |

10月 October

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1日(木) 衣替え／全校集会 | 22日(木) 芸術鑑賞会 |
| 5日(月) 2学期中間試験(～8日) | 26日(月) 第2回授業参観(～31日) |

11月 November

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 2日(月) 全校集会 | 8日(月) 修学旅行(B班～13日) |
| 8日(日) 修学旅行(A班～12日) | |

12月 December

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1日(火) 2学期期末試験(～4日) | 24日(木) 2学期終業式 |
|--------------------|---------------|

1月 January

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 12日(火) 3学期始業式 | 16日(日) 大学入試センター試験(～17日) |
| 13日(水) 特別授業開始(13年、～29日) | 19日(火) 本校推薦入学試験(～20日) |

2月 February

- | | |
|------------------------|------------|
| 4日(木) 一般入学試験(I期) | 13日(土) 予餞会 |
| 9日(火) 第3回研究・公開授業(～12日) | |

3月 March

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1日(火) 賞状授与式・卒業式予行演習 | 3日(木) 3学期期末試験(～7日) |
| 2日(水) 第63回卒業式 | 19日(土) 第3学期終業式 |

平成27年度行事



入学式



マラソン大会



アカシヤ祭



校内マラソン大会



卒業式

三世代賞

平成27年度は、写真左から槌谷大将君(郡山六中)、渡辺花耶さん(白河南中)、薄井耕亮君(守山中)の3名が受賞。受賞者には三世代の名前の入った記念の盾と記念品としてタブレットが贈られました。平成25年度までに29名の受賞があり、今回の10名を合わせると計32名の受賞となっています。



※「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖父母君様の三世代に亘る母校愛に敬意を表するもので、平成15年度に設けられました。



平成28年度 入試結果(過年度生含む) 平成27年度卒業生総数435名

※延べ人数

日本大学 204名 国公立大学 40名 他私立大学 228名 専門学校 39名 就職 18名

◆ 日本大学

法	15	商	13	危機管理	1	生産工	14	生物資源	20	看護専門学校	3
文理	22	芸術	3	スポーツ科	1	工	77	薬	4		
経済	10	国際関係	9	理工	10	松戸歯	1	短期大	1		

◆ 国公立大学

福島大学	7	山形県米沢女短大	1	宮城大学	1	首都大学東京	1	新潟県立大学	1
山形大学	3	埼玉大学	2	川崎市立看護短大	2	山形保健医療大学	1	会津大短期大学部	2
茨城大学	1	宮城教育大学	1	千葉大学	1	新潟大学	2		
会津大学	3	宇都宮大学	1	岩手大学	1	秋田大学	1		
秋田県立大学	1	福島県立医科大学	5	山梨大学	1	名古屋工業大学	1		

◆ 私立大学

東京理科大学	7	国際医療福祉大学	8	中央大学	3	明治大学	2	東京農業大学	1
法政大学	3	同志社大学	3	立命館大学	2	神田外語大学	2	東邦大学	2
駒澤大学	2	芝浦工業大学	2	成蹊大学	7	専修大学	3	東洋大学	2
帝京大学	1	拓殖大学	4	東海大学	4	北里大学	2	天理大学	2
明治学院大学	5	立正大学	3	新潟医療福祉大学	5	東北福祉大学	9	酪農学園大学	1
東北医科薬科大学	2	北海道薬科大学	1	仙台大学	1	東北学院大学	7	石巻専修大学	1
白鷗大学	2	群馬医療福祉大学	1	城西大学	4	日本医療科学大学	5	仙台白百合女子大学	1
文教大学	3	城西国際大学	1	千葉工業大学	2	明海大学	2	東北芸術工科大学	1
麗澤大学	3	亜細亜大学	1	玉川大学	8	大東文化大学	1		

※詳細は学校H・Pをご覧ください。

平成27年度 退職された先生

※敬称略



【英語科】
齊藤 栄一
昭和48年4月1日～
平成27年4月30日



【保健体育科】
青木 文次
昭和48年4月1日～
平成28年3月31日



【英語科】
伊藤 真弓
平成15年4月1日～
平成28年3月31日



【英語科】
桜井 典子
平成17年4月1日～
平成28年3月31日



【英語科】
佐久間 公民
平成20年4月1日～
平成28年3月31日



【数学科】
佐藤 大樹
平成23年4月1日～
平成28年3月31日



【数学科】
三浦 雄太
平成24年4月1日～
平成28年3月31日



【数学科】
相楽 昇
平成23年4月1日～
平成28年3月31日



【英語科】
田崎 恵美
平成27年4月1日～
平成28年3月31日



【数学科】
大塚 陽香
平成27年4月1日～
平成28年3月31日



【国語科】
高坂 知佑
平成47年4月1日～
平成28年3月31日

平成27年度 異動された先生



【数学科】
高木 宏
平成19年4月1日～
平成28年3月31日
明誠高等学校へ



【情報科】
佐藤 豪
平成19年4月1日～
平成28年3月31日
日大高等学校・中学校へ



【カウンセラー】
須藤 博子
平成12年4月1日～
平成27年9月30日



【事務課】
小野寺 ゆり子
平成12年4月1日～
平成27年11月24日



昭和53年卒 25期生 普通科2組 嶋 栄吉氏

「3年2組 活動報告」

これまで私たちのクラス3年2組(69名)の有志は、恩師である小松基扶先生の還暦祝いと退職をお祝いする会などを兼ねたクラス会を郡山市内で度々開催してきました。その活動の様子は、地元新聞(福島民報・福島民友)へも投稿し、備忘録として公表してきたところです。今回は、会津若松市内で歯科医院をしている級友の加羽澤啓一君の強い勧めで会報誌「桜朶」に投稿させていただきました。

ところで私は高校卒業後、恩師小松先生のご指導により「生物資源科学部(旧:農獣医学部)」への紹介推薦をいただいたお陰で農学分野の研究教育の道を歩むことができました。母校での小松先生との出会いがなければ



日大東北有志ミニ同級会郡山安積町 平成27年9月22日

昭和37年卒 9期生 電気科2組 高木 茂豊氏

「原田先生を囲む会」54年ぶりの開催

地元の吉田君からクラス会の連絡を受け、懐かしさに千葉県船橋から駆けつけました。夕方からの開催でしたが午前の新幹線で帰省し、春爛漫のクラス会日和に阿武隈川の支流今出川沿いの桜の名所を愛でることができました。

旧友とは惜別以来54年ぶり。再会には多少不安もありました。案の定、受付では当時の面影を認識できず、自己紹介をしてなんとか開始時刻までに参加者全員(6名)の確認がとれた状況でした。

原田先生は、市内の老人介護施設の役員として現在も元気にご活躍中とのこと。話題はやはり高校時代の思い出話。年一度のマラソン大会、就職が内定した36年の夏休みに友人と自転車で会津只見町の田子倉発



若かりし日の原田元成先生

ば今の私はありません。小松先生ありがとうございました。

3年後に小松先生の喜寿のお祝いと私たちの還暦祝いを兼ねてクラス会を開催する予定です。幹事は私嶋が担当します。皆さんの参加をお待ちしています。

《連絡先》090-3644-0424(担当/嶋 栄吉)

Eメールアドレス: eikichimomo@yahoo.co.jp



日大東北有志ゴルフコンペ棚倉にて 平成27年6月9日



恩師小松先生自宅震災復興後訪問 平成27年9月22日

電所(当時東洋一の発電量を誇る。砂利道往復約500kmを走破)を見学したこと。阿武隈川の木造の橋を渡り、通学路の清々しいアカシヤ並木の林などなど、当時の風景が走馬燈のように鮮やかに蘇ってきました。懐かしい話に花が咲くと、旧友の顔も若かりし頃の顔に見えてくるから不思議です。久しぶりに大いに若返りました。これも皆原田先生のお陰と感謝しつつ、先生や皆の健康と幸せ、会員の増加と再会を祈念して散会しました。



田子倉発電所



友人の下重忠領君(左)と沼沢沼発電所のつり橋にて

阿部正栄先生の退職を祝う会 並びに40年振りの同級会

高校を卒業以来、初めてのクラス会を11月14日(土)郡山駅前珍満にて開催いたしました。

県内外より12名が集まり、阿部先生を囲み、当時の思い出話に大いに盛り上がりました。

今回は、還暦祝いを兼ねて、2年後の開催を約束して散会しました。



若かりし日の
阿部先生



平成27年11月14日 於:珍満

阿部先生より新刊の詩集『がれきに書いたらくがき』をいただいた。詩集に成るまでは大きな振り子以上に、心の揺れがあったという。前半は震災関連の詩。「震災はもうたくさん」と聞きたくない素振りをする知人と「がれきがれきというな。がれきは生きざま。一つ一つが生をあかし」という知人の狭間のつぶやきが叫びとなり、詩になったという。

今年の5月3日(火)の福島民友「みんゆう随想」に「退職を祝う会」について触れたことを伺った。以下その一部抜

粋を掲載させていただく。

『教え子たちが、私の退職を祝う会を開いてくれた。日大東北高校43年間の教師生活に、贅沢で至福の褒美をいただいた。(中略)彼らは58歳。一人ひとりの挨拶を聞いていると、当時のクラスの情景が浮かんでくる。体育大会で優勝して、胴上げされたこと。不登校気味の彼の家へ、朝であろうと昼であろうと迎えに行ったこと。校則のことで暗くなるまで議論したことなど。また卒業記念品として、私から読めとばかりに、押しつけのように贈った文庫本。これを何度も読み、今も後生大事にしている話が出て盛り上がった。私も彼らから卒業式の日に贈られた桜の幹をくりぬいた高級置き時計が今も元気に時を刻んでいる話をした。次々と話題がこだまのように行き交う。気がつくと、宴は予定時間をはるかに超えていた。名残惜しむ中、次は彼らの還暦に開くことを約束して閉会となった。』

嬉しさとはほろ酔いのせい、帰りの電車の車窓に発起人の岡島君、深谷君はじめ12名の笑顔が次々と浮かんできたと同時に急に菊地君も浮かんできた。彼は白河の小峰城下で食堂を営む店主だが、実に30年近く年越しそばを持ってきてくれている。ただ、ただ感謝、感謝である。「そうだ、あした、あったかこころの菊地そばを食べにいこう」。思わず声が出てしまった。』

詩集に関するお問い合わせは
電話0248-44-3445 阿部正栄先生ご自宅まで



阿部先生の最新刊詩集!!

バドミントン部OBOG大会2015開催

昨年の8月16日(日)午前9時より母校の第2体育館にて恒例のOBOG大会が開催された。卒業後も大学や社会人としてバドミントンを楽しんでいるOBOGらが後輩達とともに心地よい汗を流した。結果発表と表彰式終了後、バドミントン部後援会会長の国分仁一郎氏(昭和48年電気科1組卒20期)より、男子部長西牧大輝君と女子部長柳田智咲さんに記念の特製トロフィーが贈られた。

今年のOBOG大会は8月14日(日)午前9時より母校の第1体育館にて開催予定。参加希望の方は国分会長まで。

【連絡先】国分仁一郎会長携帯:090-6783-9721



退職教職員の会総会

5月14日(土)アカシヤ館多目的ホールにて退職教職員の会総会が開催された。来賓として松井校長より挨拶があった。また渡邊教頭より学校の近況報告があった。総会後は昼食をとりながら懇親会がもたれた。今年度は新しく齊藤栄一先生と青木文次先生が加入された。11月中旬にビューホテルアネックスの「舟津」にて懇親会が予定されている。



最前列左より小山田正宏先生、松井校長、渡邊教頭、真船事務課長、味川満丸先生
二列目左より、太田興亜先生、菊地修三先生、
三列目左より、大和田文彦先生、鈴木正八郎先生、阿部雄一先生、
四列目左より、山岸利正先生、海老名幸男先生、大木進先生、木口庄壽郎先生、
五列目左より、堀田正宏先生、青木文次先生、堀谷都夫先生、
六列目左より、外山公平様、佐藤光良様、齊藤栄一先生、横山節哉先生、猪腰嘉勝先生

叙勲おめでとうございます

この度は、渡邊文夫氏が「瑞宝双光章」を叙勲を受賞されました。これは国家または公共に対して功労のある方を対象とし、その職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、授与されるものです。

瑞宝双光章



昭和48年卒 20期生 土木科 渡邊 文夫 氏 (旧姓田母神)

平成27年度秋の第25回危険業務従事者「瑞宝双光章」叙勲
郡山市田村町栃本出身(福島市荒井在住)

昭和48年に陸上自衛隊に入隊。福島駐屯地第11施設群本部の人事幹部、施設機械幹部を歴任し、平成20年に第4科長で退官。主に補給管理業務を担い、備品の適正管理に尽力した。「公平公正を信条に隊員の勤務環境向上に努めました。周囲の支えなしには全うできませんでした。」と自衛隊での歩みを振り返る。

現在は株式会社パスク福島営業所に勤務、国土交通省受託業務のうち河川巡視業務(公物管理・河川パトロール)に従事するかたわら、休日は県北陸協の理事(および審判員)として大会運営にも協力している。

《青木文次先生(保健体育科)ご退職》

平成28年1月3日(日)午後3時より、郡山ビューホテルアネックスで『青木先生に感謝する会』が催された。会の発起人は影山正広さん(19期普通科卒)の前桜美会会長。「体操愛好会」発足から50年、またOB会発足から40年になる節目の年は青木先生のご退職と重なることから、桜美(おうびー)会(女子入会のため平成5年1月より名称変更)の現会長の高瀬眞弥さん(27期建築科卒)らと2年前から入念に準備を進めてきた。

「土日返上で毎日遅くまで面倒見てくださり、多くの生徒が青木先生の熱い男気に薫陶を受けた」とし、その日お祝いに駆けつけた参加者は、先生が赴任された当時の3年生(19期卒)から現役の大学2年生(62期卒)までの総勢120名。(写真)

乾杯に先立ち影山前会長は「実に43年の永きに亘り体操部顧問として、のべ220名以上の卒業生を世に送り、数多くの全国大会出場※を通して、県内外に母校「日大東北

体操部」の名を知らしめた先生の功績は極めて大きい。」とし、その労をねぎらい感謝の想いを伝えた。現体操部顧問の川崎佳宏先生の挨拶に続き、ジュニアから青木先生の指導を受けた中津原純也君(現体育クラス2年)が祝踊(日本舞踊)を披露し華を添えた。

堅苦しくないものをという先生の願いもあり、参加者たちは思い通りの服装で、終始和やかな雰囲気では進行した。途中、神官姿の前会長の影山正広さん(19期普通科卒)と神父に扮した前副会長の上杉元明さん(20期機械科1組卒)の登場に会場は笑いの渦に包まれ、壇上の青木先生からも穏やかな笑みがこぼれた。卒業証書と記念品の「旅行券」を手にした先生は「みなさんがいたから今の私があります。皆さんは本当に私の宝です。」とひと言ひと言噛みしめるよう詰めかけたかつての教え子達を前に43年の教員生活をふりかえり謝辞を述べた。なお、「似顔絵」「青木人形」(写真)は誕生日に贈られた記念品。



「似顔絵」「青木人形」は誕生日に贈られた記念品

※体操部全国大会出場歴

インターハイ	男子39回	女子7回
国民体育大会	男子25回	女子3回
全国選抜大会	男子 3回	

青木文次先生に感謝する会



平成28年1月3日 於：郡山ビューホテルアネックス

クラブ活動の記録

第70回国民体育大会

陸上部

男子少年B男子 砲丸投げ 2位 佐藤 皓人(西 袋)

水泳部

女子少年A女子 50m自由形 2位 国分 香奈(郡山一)

第23回東北高等学校新人水泳競技大会

水泳部

女子 400mリレー 2位 国分 香奈(郡山一)
今泉 杏(郡山四)
鈴木 冬乃(行 健)
星野美沙希(行 健)
50m自由形 1位 国分 香奈(郡山一)
100m自由形 1位 国分 香奈(郡山一)
大会新記録
3位 星野美沙希(行 健)
200m自由形 3位 星野美沙希(行 健)

第23回東北高等学校相撲選抜権大会

相撲部

無差別級 3位 田中 界渡(鰯ヶ沢)
重量級 2位 田中 界渡(鰯ヶ沢)

第67回全日本合唱コンクール東北支部大会

合唱愛好会 銀賞 出場40校中14位

第70回東北高等学校陸上競技大会

陸上部

男子 団体 総合 4位
男子 個人 100m 5位 佐藤 敏己(小 平)
400m 2位 峯村 智志(行 健)
4×400mR 2位 高沢 一希(矢 祭)
伊藤 敏己(小 平)
伊藤 孝宏(郡山二)
峯村 智志(行 健)
砲丸投げ 2位 天野 光汰(安 達)
円盤投げ 5位 天野 光汰(安 達)
女子 個人 100m 5位 新田 彩(郡山五)
砲丸投げ 4位 柳沼 翠(船引南)

第56回東北高校テニス選手権大会

硬式テニス部

女子 団体 優勝 伊藤 萌夏(岳 陽)
遠見 文香(野 田)
橘 薫乃(郡山二)
齋須 彩夏(鰯ヶ沢)
野内茉莉乃(本宮一)
女子 個人 シングルス優勝 伊藤 萌夏(岳 陽)
ダブルス 3位 橘 薫乃(郡山二)
齋須 彩夏(鰯ヶ沢)

第65回東北高等学校柔道大会

柔道部

男子 個人 体重別 優勝 結城 汰一(郡山六)

第4回金澤翔子美術館書き初め展

書道部 トーカンオリエンズ賞 薄井 楓香(須賀川三)

第52回創玄展

書道部 漢字部仁科賞 印南 衣梨(須賀川一)

平成27年度全国高等学校ライフル射撃競技選抜大会 東北・北海道ブロック予選会

ライフル射撃愛好会

男子 個人 BP40JM 2位 國分 翔麻(本宮二)
※全国選抜大会出場権獲得
女子 個人 BP40JW 2位 酒井 萌(郡山四)
※全国選抜大会出場権獲得

第61回福島県高等学校体育大会

体操部

男子 団体 総合 2位
女子 団体 総合 優勝
男子 個人 総合 優勝 柳田 大地(郡山三)
ゆか 優勝 柳田 大地(郡山三)
跳馬 優勝 柳田 大地(郡山三)
平行棒 優勝 柳田 大地(郡山三)
鉄棒 優勝 柳田 大地(郡山三)
つり輪 2位 柳田 大地(郡山三)
女子 個人 総合 優勝 大坂 萌笑(小原田)
跳馬 2位 大坂 萌笑(小原田)
3位 大和田 愛(郡山三)
平均台 優勝 大坂 萌笑(小原田)
3位 大和田 愛(郡山三)
段違い平行棒 優勝 大坂 萌笑(小原田)
3位 黒田紗也香(仙台山田)
ゆか 2位 大坂 萌笑(小原田)
3位 黒田紗也香(仙台山田)

平成27年度福島県高等学校新人体育大会

剣道部

男子 団体 3位 東北大会出場

第40回ギターリーダースクラブ学生ギターコンクール

1位 渡邊 華(郡山二)
2年連続

※『広報日大東北』より転載

近況報告掲載者募集

桜朶8号が復刊してから早7年が経過し、お陰様をもって今回で14号を迎えました。いまでも会報誌桜朶に関しては多くのご意見が寄せられていましたが、来号(15号)から、寄せられた内容を編集部にて原稿として掲載させていただきたいと企画しております。右のはがき(または手紙、あるいはFAX・メール)をご利用の上、掲載希望にチェックを入れて編集部まで返信して下さい。会員の皆様の近況報告の声をお待ちしております。詳細は最終頁をご覧ください。



ハガキの内容を活字に直して掲載させていただきます。



●皆さんの近況をお知らせください。
クラス会の呼び掛けや近況報告を会報に掲載することができます。

※会報に掲載を希望する方は、☐に☒印をしてください。 ☐ 掲載希望
☐に印がない場合は掲載をいたしません。

※本用紙に記入された個人情報は会報・案内等を送付する際に使用します。
今後継続して、事務局からの案内の送付を希望されない方は、
下記の☒印を付して返送もしくはホームページよりご連絡ください。

☐ 会報・案内の送付を希望しない。



桜采編集部よりお知らせ

《平成29年夏発行予定の「桜采(OUDA)15号」の原稿を募集いたします。》

役員会を経て定例総会において「桜采編集部」が会長直轄の組織として立ち上がりました。今後はより多く会員の皆様の声をお届けできるよう準備して参りますので、よろしくお願いいたします。

今後も高校時代の思い出「当時をふりかえって」やクラス会等の記事を継続募集いたしますので、桜采編集部までお寄せください。応募要領は次の通りです。ご本人のお名前・卒業年度・科・卒業時担任名・連絡先(住所、電話、FAX番号またはPCメールアドレス)を明記の上ご応募ください

- 1)原稿内容：高校時代のエピソード。
- 2)文字数：400～800字以内。
- 3)締切り：随時受付しておりますが、平成29年夏発行予定分の掲載締切りは平成29年4月末日とさせていただきます。
※締切り以降の受け付け分に関しては次年発行予定分に掲載させていただきます。
- 4)応募方法：メール、FAX、郵送でもお受けいたします。



- 5)応募先：メールアドレス kaihou.ouda@gmail.com
TEL024-956-8841(高校事務課)
FAX024-956-8873
住所 〒963-1165 福島県郡山市田村町徳定字中河原1番地
日本大学東北高等学校同窓会 桜采編集部あて

《同窓会のHP(ホームページ)について》

同窓会のHPでは、「住所変更」や「お問い合わせ」が可能です。

さらに会報誌「桜采OUDA」1号～14号のバックナンバーもご覧いただけます。

編集後記

今年も多くの方々に支えていただきながら何とか発行にこぎ着けました。記事掲載および写真提供等ご協力いただいた方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。誌面の都合上、支部便り「須賀川支部総会、6月18日(土)サンルート須賀川・白河支部総会7月16日(土)

サンルート白河にて開催」を割愛せざるを得ませんでした。お詫び申し上げます。次号からは会員の皆様の声をより反映できるよう努力して参りますので、どしどしお寄せいただければ幸いです。最後までお読みいただきありがとうございました。

郵便はがき

9 6 3 1 1 9 0

料金受取人払

郡山局承認

2204

差出有効期限
平成30年8月4日迄
です。切手をはらず
にお出ください。

郡山市田村町徳定字中河原1

日本大学東北高等学校

同窓会 行



《個人情報の取り扱いについて》

1 ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。
同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。(同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等) 同窓会会員名簿の作成。

上記1の使用に当たっては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

2 個人データの第三者提供の制限

ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

法令の規定による場合

ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

3 個人情報管理について

ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

4 個人情報の開示・訂正・削除について

個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。

個人情報の取扱いに関する件で何か申し出がある場合は、同窓会(日本大学東北高等学校同窓会(アカシア会)へ左記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ

日本大学東北高等学校同窓会

郡山市田村町徳定字中河原1

http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com



〒			
現住所	都道府県		
TEL	携帯		
氏名	生年月日	男・女	
卒業年	※いずれかに○をつけてください。 建設・機械・電気・工業化学 普通・土木・建築		